

平成26年度 第2回学校評議員会の報告

- 1 日 時 平成27年2月19日(木) 10:00~12:00
2 場 所 本校会議室
3 出席者 学校評議員
A評議員 (交流学校長)
B評議員 (地域代表)
C評議員 (福祉・行政代表)
D評議員 (関係機関代表)
E評議員 (保護者代表) 以上5名

学校職員 校長 副校長2名 事務長 総括教務主任 小学部主事
中学部主事 高等部主事 進路指導主事 寮務主任
特別支援教育センター部長 以上11名

4 学校評議員会 10:00~12:00

(1) 学校長挨拶

- ◎支援学校の生徒増による教室不足は以前続いている。本校では、12月に高等部特別教室棟が完成し、これまで普通教室と作業室を兼用していたものが解消される。
- ◎高等部受検が終わり、次年度入学生は半数以上が他校からの入学生である。平成27年度は、50学級241名でスタート予定である。
- ◎社会の信頼を得られるよう職員全体でコンプライアンスへの取組を実施している。
- ◎本日は忌憚のないご意見をお願いしたい。

(2) 議題

ア 【平成26年度学校経営の取組状況について】

- ◎「平成26年度学校経営の重点に迫る各学部の取組とその結果」について、各学部主事、寮務主任、副校長より説明。併せて、取組の様子をスライド写真で紹介した。

<質疑意見>

- 遠野分教室中学部3年生が卒業すると、分教室中学部の在籍は何名になるのか。
分教室が今後も、活発に運営されていくことを期待する。
⇒新1年に3名が入学、新2年に1名、計4名の在籍となる。
- 各学部の取組は素晴らしい。地域との交流も、街中での「野菜販売」等、活発に行われていることを新聞記事を見て初めて知った。太田では、「むらの家」のお祭り、「ひな祭り」など、コミュニティー交流として地域行事も季節ごとに行われているので、このような催しも利用し交流できる機会があっても良いと思われる。
- 非常放送が休日に長い時間鳴っていることがあった。近隣地域に大きく機械警備放送が流れるが、管理体制はどうなっているのか。
⇒休日は、警備会社の機械警備となっているため、確認するまでに時間を要する。
⇒初動が遅れないように、警備体制をお願いしたい。

イ 【平成26年度進路状況】 ----- 進路指導主事より説明

<質疑意見>

- C施設では、精神障がいの方が増えている。また、生活困窮者の自立に向け年度途中で

の受け入れもある。利用者は高齢化しているが、慣れ親しんだ施設からの異動は難しい状況である。本校卒業生の受け入れがC施設の使命と考えているが、そのためには定員増加が必要である。予想がつけば今後の見通しの情報があると良い。

○制度改正があり、行政側としてなかなか対応しきれていない。学校との連携のおかげで本人や家庭への支援に助かっている。福祉サービス利用に係るサービス利用計画の見立て、意向確認、進路決定の福祉サービス事業所B型手続きの市町村の進め方をどうするのか遅れている。

○一般就労は、縁故があつて就労できているのか。

⇒縁故はない。職場開拓を進める上でも、保護者からの情報があればお願いしたい。

ウ 【特別支援教育センター部活動状況】 ----- 特別支援教育センター部長より説明
＜質疑意見＞

○継続型訪問支援とは何か。通常学級にも支援の必要な児童が増えており、専門家の方にアドバイスをもらえるのは大変助かっている。

⇒年3回、継続して学校を訪問する事業である。今年度は15校が対象となっている。

⇒一般的な相談は、単発的な教育相談で面談が中心である。継続型訪問支援は、ストーリー性を持たせ追跡的に行うものである。幼稚園や保育所にも対応している。

エ 【平成26年度学校評価結果について】 ----- 担当副校長

＜質疑意見＞

○「生きる力」の育成は、挨拶、清掃、体力づくりなど学校・家庭・社会生活の基礎力を高めることを重点として各学部よく取り組まれている。高等部が挨拶80%の達成率なのは、思春期でもあり仕方がないと考える。挨拶運動などで、挨拶の意識はできている。

○「授業力向上」は、「学校が楽しい」という児童生徒・保護者の回答結果から、目標数値を達成しておりA評価が妥当である。

○「キャリア教育」の充実は、希望進路実現100%でA評価であるが、就労することだけではなく将来を見据えながら、根気強く取り組む力や我慢する力、困ったときどう行動したら良いかなど、小中高のそれぞれの段階において育んでいくことも大事である。

○「交流及び共同学習」はB評価であるが、学校間交流だけでなく、高等部が街へ出たの野菜販売会もあり、地域交流としてA評価でも良いと考える。

○「センター的機能」の充実は、専門性の向上に取り組めた教職員が79%であり、指標80%を達成できなかったことでB評価であるが、その背景が、教職員の意欲はあるものの授業の補充体制の関係から積極的参加が難しかったのであれば指標が高いのではないか。人的・物的に、研修に出せる環境作りが必要ではないか。

○「安全・復興教育」の充実については、児童生徒の災害時の行動理解が79%であり、指標80%に達せずB評価であるが、指標が高くはないか。子ども自身がよく分かる安全・復興教育を小中高一貫して行い、数値を高めていくことが必要である。また、実際の避難時の行動の様子を観察して、災害時の行動理解ができているかどうかを検証していくことも必要ではないか。

オ 評議員提言

＜A評議員＞

社会に出て自立を目指す素晴らしい学校経営である。小中の連携したキャリア教育が高等部につながっている。小学部段階で、「元気に挨拶する。」「分からないことは聞く。」「我慢する。」ことを育むことで大人になったときにも実践できる。高等部の野菜販売会は、自分たちが実際地域に出てお客と対面し行うことで、自尊感情や達成感、社会性、コミュニケー

ションを高め、地域社会に出て学びを深めるものとなっている。また、地域の大人にとっても特別支援教育や生徒理解につながり共に育つ教育活動となっていると考える。

高等部生徒による小学校のワックスがけを今年度もしていただきありがたい。来校時の挨拶も立派である。

< B 評議員 >

改めて支援学校のたくさんの取組を勉強させてもらった。教育活動の楽しい取組を知るとともに、施設設備環境や人的な面での厳しさも知った。

< C 評議員 >

福祉行政の立場から地域での関わりが多いが、地域生活でのつまずきは作業能力よりも「日常の挨拶をする。しない。」によることでトラブルが起きることが多い。小さな時から、色々な経験をさせ、経験の積み重ねにより将来の選択ができるようにしていただきたい。

< D 評議員 >

東日本大震災の日、C施設では30分前に避難訓練を行った。地震時、バスに乗っていた人はその揺れを大喜びし、建物の中にいた人は揺れに耐えるだけで何もできなかった。職員にも指示が回らなかった状態であった。本当に地震が来ると、感覚が変わり行動ができなかったことが実情である。地震の怖さは伝わらない。南花巻温泉郷の入り口から豊沢側に沿って活断層があると聞いているが、実際に活断層がどこにあるのか視野に入れた危機管理をするのも良いのではないか。

< E 評議員 >

今年度は、ほぼ問題なく学校運営されたと思う。年度当初から夏季休業前までは、教室不足のため2学級が1教室を使用する状況もあり、生徒のトラブルが多く保護者としての不安があったが、夏季休業前に、学部長が学部保護者との懇談会を設け保護者の様々な意見を聞く機会をもってくれた。夏季休業後には改善してくれたことで、親の安心度も上がった。できれば、このような保護者懇談会が定期的（年1回でも）に持たれると良い。